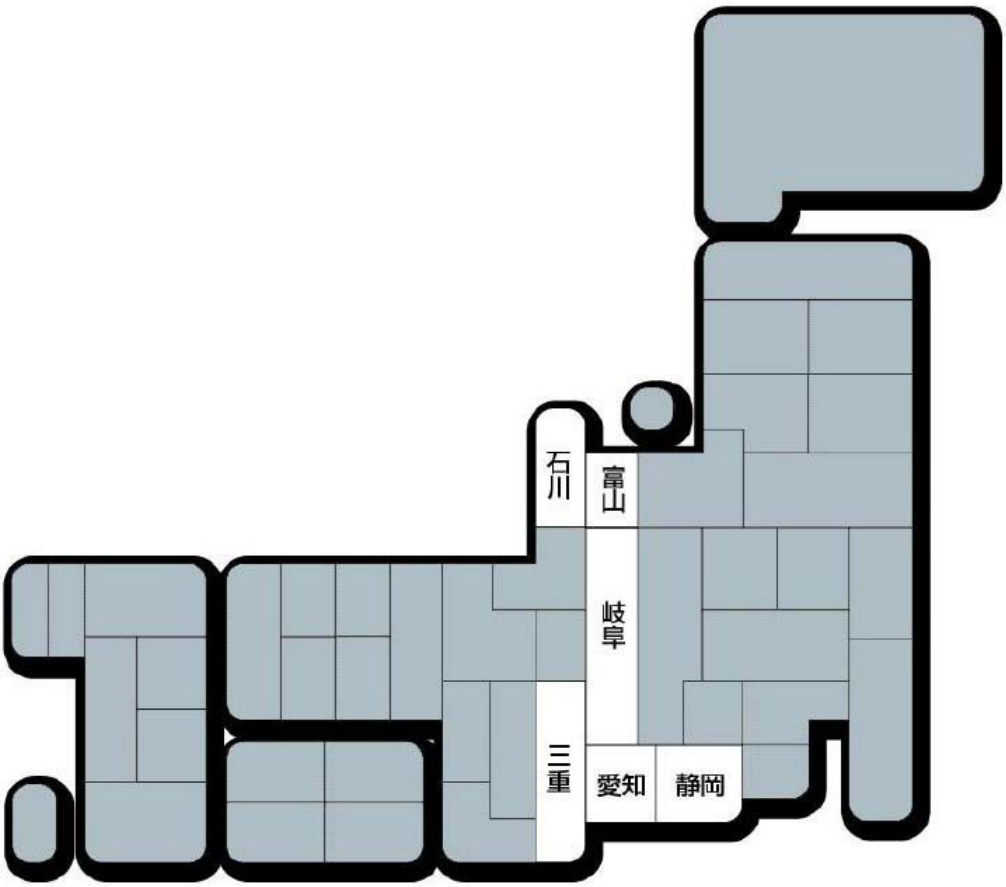
東海北陸国立病院薬剤師会

会誌

THP Tokai Hokuriku National Hospital Pharmacists Association



Vol.24

2020.11

目次

巻頭言

静岡医療センター　高木　亮　・・・・ 3

施設紹介

榊原病院薬剤科紹介

榊原病院　竹内　正紀　・・・・ 4

委員会報告
教育研修委員会

静岡医療センター　薄　雅人　・・・・ 6

業務推進委員会

名古屋医療センター　井上　裕貴　・・・ 8

学術研究委員会

静岡てんかん・神経医療センター　山本　吉章　・・・・ 11

編集後記　・・・・ 13

巻頭言

2020 年の流行語大賞の候補は何であろうか。年末に向かって「鬼滅」が盛り上がっているが、クラスター、３密、ソーシャルディスタンス、PCR 検査、GoTo など新型コロナウイルス感染症に関するものも多そうである。新型コロナウイルス感染症のセカンドインパクト？の真っただ中、この秋冬は、インフルエンザ感染症とのツインデミックが危惧されており、流行しないことを祈るばかりである。しかし、今回の新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、リモートワークや Web 会議、オンライン診療が実施されるようになり、今後 5G の広がりもあり ICT(Information and Communication Technology)はますます発展するものと思われる。

高齢化社会の現在、医療や介護は国民の 4 人に一人が後期高齢者となる 2025 年問題に直面し（新型コロナウイルス感染症対策で手一杯であるが)、2025 年に向け地域包括ケアシステムの導入、在宅医療の推進、介護ロボットや AI（Artificial Intelligence）の開発が進められている。さらに、高齢者人口がピークとなり現役世代が急減する 2040 年問題も存在する。20 年先の話となると、自分自身が高齢者となり支えられる立場であるが、インフラを含めた技術進歩で環境がどのようになっているのか、MS-DOS 時代に大学を卒業した私にはよくわからない。

2020 年の現在を 2000 年に予測できたのか？2000 年といえば、まだ iPhone は世の中に存在せず、携帯の写メもなかった時代である。医療においては電子カルテが 1999 年に厚生省が認可したばかりであり、病院薬剤師においても人員配置基準が改定され、薬剤管理指導業務以外にプレアボイド活動など業務を広げていこうとしていた時期であった。現在、ソーシャルメディアが台頭し、スマートウオッチの心電・心拍モニターが承認され、車の自動運転も現実的となり、さらにドローンで人を運ぶことも可能となってきた。これからの２０年のテクノロジーの進歩は、今までの２０年より遥に早いと想像される。将来、ターミネーターやパワードスーツ（アイアンマン）が開発され（いやひそかに開発しているでは？）恐ろしいことが起こるかもしれない。

今後薬剤師はどうなっていくのか？来年度にもデジタル庁が創設される見込みで、脱ハンコも含め社会のデジタル化が進もうとしている（調剤印無くなるかな)。既に 2022 年には電子処方箋の運用開始が予定されており、電子処方箋により運用面の課題はあるが、医療機関間、医療機関―薬局間での情報の共有・共用化がさらに進むであろう。また、高齢人口の増加に伴い、医療のニーズは急性期から回復期・慢性期、地域医療へと広がっていき、職種間、地域間での連携がますます重要になっていくと思われる。我々も前例主義にとらわれずに、時代の潮流を読み、今後も医療の質と安全を高めることを目指して業務に向かうことが必要と考える。

現在、PBPM を実践することにより、薬物治療の高度化や安全性の確保、医師の業務負担軽減などに関与できている。しかし、これからは薬剤師が何でもするのではなく、薬剤師がやるべき業務は何か、その業務に必要なマンパワーがどれだけなのかを考え、薬剤師がプロとして職能を発揮できる環境整備も重要と思う。結局、20 年先のことはわからない、でしょうか。

静岡医療センター薬剤部　高木　亮

（人恋しい季節、単身赴任の部屋にトニー・スタークが開発したジャービス（J.A.R.V.I.S）のような AI がいてくれるといいのかな。）

病院紹介

榊原病院　　竹内 正紀

榊原病院は、医療観察法病棟（18 床）を有する精神科専門の医療機関です。当院は、伊勢自動車道の久居インターから車で約 20 分、清少納言の枕草子にもある有名な榊原温泉にほど近く、山々の自然に囲まれた閑静な温泉地の丘の中腹にあります。

小規模な病院ですが、多機能であることを特徴としています。一般の精神科をはじめ、児童・思春期の心のケア、難治性統合失調症、徘徊や暴力など周辺症状が目立つような認知症、強度行動障害、医療観察法による処遇を受ける方など、様々な症例に対応しています。

2019 年 6 月には訪問看護ステーションを開設し、デイケアや短期入所サービスも行っており、在宅支援にも積極的に取り組んでいます。また、災害時の対応として災害派遣精神医療チーム（DPAT）活動も行っており、日々研鑽を積んで有事に備えています。

午前中は調剤業務がメインになりますが、午後からは各種委員会活動、病棟服薬指導業務、CPMS(Clozaril Patient Monitoring Service)を利用したクロザピンチーム医療への参画、統合失調症やアルコール依存症の治療プログラムによる患者（家族）教育としての薬剤講義、病棟チーム医療カンファレンスへの参加、各種研修会の企画、三重県難治性精神疾患地域連携ネットワーク事業活動への参加など、少人数の職場ながら幅広く業務を行っています。

特に、クロザピンを使用した難治性統合失調症への薬物治療には力を注いでおり、クロザピン治療専用病棟をオープンして、平成 26 年 10 月のクロザピン治療開始より 5 年半を経て、導入症例が今年の春で 100 例を超え、記念品の「津 高虎 どらやき」がお祝いとして全職員に配られました。

個性豊かな看護師さんからの問い合せには驚かされることもありますが、他職種との距離が近いことはとても魅力的で日々勉強になります。時々対応に苦慮することもありますが、患者さんからの「ありがとう」の笑顔は日々の活力になっています。毎日が慌ただしく過ぎていきますが、和気あいあいとした楽しい職場です。

私が薬剤師になった平成 2 年頃、精神科は敷居が高く受診への抵抗感や偏見が強い時代でした。それから 30 年が経ち、精神疾患への偏見は減り、精神医療の敷居は随分低くなったと感じています。「ワーク・ライフ・バランス」が叫ばれる昨今、うつ病は恥ずかしい病気から、こころの風邪と呼ばれることも多くなり、積極的に受診されるようになりました。精神分裂病は統合失調症と名称が変わり、副作用の少ない治療薬も増えてきました。

厚生労働省は 2004 年に「精神保健医療福祉の改革ビジョン」を掲げ、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方策を推し進めることになり、精神医療は患者を社会から隔離することから、地域移行と社会復帰を目指す方向に変化しました。薬物療法では、病棟内適応を目的とした旧来の鎮静中心の多剤大量投与から、心理社会療法を支援する社会適応を目指した単剤療法へと向かいつつあります。統合失調症の一部には通常薬剤が効かない難治性症例があり、当院では最後の切り札としてクロザピンを投与することにより状態が改善し、長期入院を脱して外来通院に移行できた劇的な症例を経験することがあります。

今年 2 月には、新型コロナウイルス感染症で問題となったクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の乗客下船後の隔離施設において、当院の災害派遣精神医療チーム（DPAT）が支援活動を行いました。災害派遣医療チーム（DMAT）活動はよく知られていますが、感染被害者に対する DPAT 活動は想定外の初めての経験で、感染リスクと行動制限から高まる乗客のストレスに対して何ができるのか？精神医療の必要性を感じながら手探りの状態で脇役的な活動が中心であったと院内報告がありました。ウィズコロナに移行しつつある現在、今後はウイルス感染症流行下で発生する地震や水害等の自然災害、複合災害と呼ばれるさらに難しい状況に対してどのような対応が可能か、今回の経験を振り返り、検討を重ね日々研鑽を積んで有事に備えることが重要だと考えます。

コロナ禍による行動制限から在宅時間が増え、DV やアルコール依存の増加、パチンコ店のギャンブル依存問題など、新たに精神医療が必要とされる機会が増加しています。医療業界は在宅勤務には向かない現場ではありますが、「3 密」を避ける Web 環境による打合わせや会議が増え、学会や研修会への参加に伴う出張、移動機会の減少が期待されます。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会情勢の変化は、精神医療を取り巻く環境のみならず、社会の仕組みや生活様式にまで大きな影響を及ぼし、新たな課題を浮き彫りにしています。

教育研修委員会の活動報告（令和 2 年 10 月）

教育研修委員長
薄　雅人

教育研修委員会では NHO PAD で示される OFF-JT での教育補完を目的とした、新採用薬剤師研修会、ファシリテーション研修会、マリモ研修会、教育研修地区勉強会を開催してきました。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、参加者およびスタッフの安全確保や NHO 施設での蔓延防止の観点から、新採用薬剤師研修会およびマリモ研修会をやむなく中止とさせて頂きました。今後も新型コロナウイルス感染症は、終息の目途がつかないため、新しい研修様式について考えていきたいと思います。学会も地域の研修会も Teams、Zoom、Webex、Meet と様々なオンライン会議システムを利用し実施されています。オンライン会議システムを「使ったことがない」「よくわからない」なんて言えない時代がすぐそこまで来ています。習うより慣れろという言葉通り、使ってみるのが一番と考えていますので、Teams の利用促進を目的とした、操作訓練について現在検討をしています。

最後にアンサングシンデレラ、期待通り薬剤師の葵さん大活躍でしたね。理想の薬剤師像をわかりやすく、しっかりと示してくれましたので、いつでも振り返りができるよう名言を以下にまとめておきます。

・感謝されたいなら、薬剤師は向いていない。
・希望を与えるなら責任を取らなければいけない。
・ただ誰かが手を貸してくれたり話を聞いてくれるだけで、気持ちが楽になることもあるでしょ。
・病気を診るのではなく、患者さんを診るのが私たちの仕事だと思っています。
・DI 室のレベルがその病院の薬剤部のレベルを決定する。
・処方箋を捌いて捌いてさばききる。そう手を動かす。
・目の前の仕事に集中して。
・だめなんです、薬剤師はミスはだめなんです。絶対に。
・患者のために仕事をしろ。
・自分で自分の立ち位置を決めちまったら、そっから進めなくなるぞ。
・お前がしたいことじゃなくて、患者さんがしてほしいことをやれ。
・患者さんを最後まで看取ることは大切。だけどこれからの未来を見ることも、同じかそれ以上に大事なことだからな。
・治験は 1 人の患者ではなく、すべての人々の安心のため、人類の未来のために行われる。
・それはね、君が真に優秀な人材だからです。
・大切な日常、それぞれの未来。
・それ、わかる～。

◆　ファシリテーション研修会

開催日時：令和 2 年 1 月 25 日（土）

開催場所：名古屋医療センター

受講生　：11 人

令和 2 年 1 月 25 日（土）に令和元年度ファシリテーション研修会（第 1 回）（旧 中堅薬剤師研修会Ⅰとして第 8 回）を名古屋医療センターにて開催しました。対象者は 5～6 年目を中心として開催しました。研修は例年通り、ファシリテーションスキルの向上を目的としています。研修生は主任薬剤師 1 名、薬剤師 10 名の計 11 名（男性 5 名、女性 6 名）が参加しました。スタッフ 9 名、外部講師 1 名（久田邦博先生）の 21 名で研修会を実施しました。今年も後輩薬剤師の指導・育成方法についての SGD、ファシリテーションの講義等を行い、研修会実施計画書の作成という課題にも取り組んで頂きました。

今回は本研修会の初の取り組みとして「口火係」について紹介したいと思います。「口火係」は、相手グループの発表後に、質問の口火を切る役を担当し、さらに質問後には別の質問者を指名するというルールとしました。その結果、相手グループの発表時も「口火係」だけではなく、全受講生の間で緊張感が高まり、活発な意見交換につながりました。今後もより活発な意見交換ができるようなルール作りを検討してきたいと思います。

令和初、改名後初開催、初の取り組み、初チーフタスクと初めて尽くしの研修会となりましたが、中堅薬剤師研修会Ⅰで長年培ってきた経験に、受講生・講師・タスクからの意見を柔軟に取り入れていくことで研修内容を常に見直し、よりよい研修会を目指していきたいと思います。また、With コロナの時代を迎えるにあたり、今までの研修会の在り方を考え、新たな開催方法も検討していきたいと考えております。

業務推進委員会活動報告（令和 2 年 10 月）

業務推進委員会委員長
井上　裕貴

業務推進委員会は、今年度より新しい体制で活動して参りました。以前からの活動を継続的に引き継いでいくことと委員のみなさま全員で参加できるような体制作りを試みました。研修や業務量調査などの目的をより明確にするために委員会を「業務向上小委員会」、「業務改善小委員会」、「業務共有小委員会」の小委員会に分類し活動をしております。

今回は 2020 年 4 月から 2020 年 9 月までの各小委員会からの活動報告をさせていただきます。

≪業務推進委員会コアメンバー≫
今年度からコアメンバーにあたらしく 6 名の方が加わりました。（★）
よろしくお願いいたします。

委員長	井上　裕貴（名古屋医療センター）
副委員長	田淵　克則（金沢医療センター）　後藤　拓也（名古屋医療センター）
小委員会委員長	★安藤　舞（豊橋医療センター） ★安達　尚哉（富山病院） ★垣越　咲穂（豊橋医療センター） ★小山　一子（名古屋医療センター） ★酒谷　健斗（北陸病院） ★藤居　昂生（石川病院） 細江　慎吾（豊橋医療センター） 山内　貴子（名古屋医療センター） 脇田　恵里（豊橋医療センター）

◆業務向上小委員会◆
小委員長：山内（名古屋医療センター）　安藤（豊橋医療センター）
①THP 第 2 回　THE プレアボイド大賞 WG
この小委員会では、各施設の優良プレアボイド情報を収集・共有することで、日々の薬剤師業務内容の参考・向上につなげることを目的としています。

今年度も THP 会員施設に、2019 年 4 月から 2019 年 12 月までの期間で、施設における優秀なプレボイド事例を集取させていただきました。2020 年の 3 月に審査を終了し、MVP（Most Valuable PREAVOID）および優秀賞を決定させていただきました。
勝手ながら表彰させていただきたいと思います。

表彰対象は以下の通りです。あくまで業務推進委員会の独断で決定させていただきました。

MVP(Most Valuable PREAVOID)	1 演題(三重中央医療センター)
優秀賞	2 演題(三重中央医療センター、東名古屋病院)

謝辞　THP 第 2 回プレアボイド大賞を行うにあたり、事例の取りまとめをして頂いたご施設の先生方と審査にご協力いただいた先生方には深く感謝申し上げます。
第 2 回の総括として、評価方法の一部見直しを検討中です。また、若手の薬剤師の報告で優秀な報告も賞の対象としていく予定です。

◆業務改善小委員会◆
小委員長:小山(名古屋医療センター)、細江(豊橋医療センター)　脇田(豊橋医療センター)
①働き方改善 WG
この小委員会では、家庭を持った女性薬剤師が働きながら業務をどのように両立させているかをインタビュー形式で聞き取りを行います。その内容を THP 会員で共有し、働き方を参考にし、会員で考えていくことを目的としています。
今年度は、「NHOママ薬剤師(*Pharmama*)に聞く　Vol.3」および「NHOママ薬剤師(*Pharmama*)に聞く Vol.4」を作成しました。
2020 年 5 月頃に 2 刊同時発刊させていただきました。
家庭を持たれている薬剤師の先生だけでなく、これから家庭を築かれる予定の先生方にもご一読いただき、今後の働き方の参考の一例としていただければと思います。
THP　HP　業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご覧いただけます。
http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html
2020 年 9 月現在は、「NHOママ薬剤師(*Pharmama*)に聞く　Vol.5」に向けて準備中です。

◆業務共有小委員会◆
小委員長:安達(富山病院)、垣越(豊橋医療センター)　、藤居(石川病院)
①薬薬連携 WG
この小委員会では、THP 会員各施設の実情や地域の医療状況に応じて、医療機関と薬局が相互に円滑な連携を図り、患者さんが地域で継続性のある適切な薬物治療等を受けられるように、薬剤師がどのように貢献すべきか検討することを目的としています。

各施設の薬薬連携の現状把握と情報提供用紙の収集にむけてアンケートをさせていただきました。詳細な結果については、THP　HP　業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご覧いただけます。

http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html
この結果を踏まえ、各施設の取り組みで参考にしたい取り組みや書式を収集し、紹介させていただく

ことも検討中です。
ご協力よろしくお願いいたします。

②COVID-19 対応
コロナ感染対策に伴う、薬剤部の業務体制、感染予防対策、治療体制などの対策を情報共有し各施設での対策にお役立てできるように資料を収集しました。
THP HP 業務推進委員会書庫（下記リンクから会員ページに入ってください）より臨時的にフォルダを作成しましたのでご確認ください。
http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html

③チーム医療
2020 年度の THP チーム医療名簿を作成しました。チーム医療について、大きな施設で何人かで取り組んでいる施設もあれば、孤軍奮闘で対応されている先生方もおられるかと思います。
率直に、他の施設はどうしているんだろう、といった疑問について、他施設の担当者に相談頂くためのツール等にご活用頂ければと思います。
このような背景で取り組んでおりますので、相談を受けた先生方も、是非ご協力のほど宜しくお願いします。
名簿についても、THP HP 業務推進委員会書庫（下記リンクから会員ページに入ってください）よりご覧いただけます。
http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html

以上、上記が 2020 年 4 月から 2020 年 9 月までに取り組んだ委員会報告となります。
業務推進委員会では、少しでも THP 会員の業務遂行能力の向上や業務の効率化、業務の共有につながればと考えております。お時間あるときに HP をご覧いただき、会員の皆様の業務にお役立ていただきますようお願いいたします。

2020 年 9 月 1 日

令和 2 年度前期学術研究委員会活動報告

学術研究委員会委員長　山本吉章

１．令和 2 年度　学術小委員会活動実績

継続

1) 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の疼痛緩和治療に関する現状調査

代表：座光寺伸幸（富山病院）、石田奈津子（金沢大学）

2) 高齢者のポリファーマシー発生要因に関する後ろ向き多施設共同研究

代表：早川裕二（国立長寿医療研究センター）

3) ダプトマイシン（DAP）の高用量の安全性について

代表：上田真也（静岡医療センター）

4) 薬物間相互作用によって誘発されるポリファーマシー

代表：山本吉章（静岡てんかん・神経医療センター）

5) 病棟薬剤師の手指衛生に対する意識向上を目指した多施設共同研究　－教育学的介入による効果の検討－

代表：松田明里紗（三重中央医療センター）

2. 令和 2 年度　学術研究委員会コアメンバー会議

出席者：山本（静岡てんかん・神経医療センター）、林（名古屋医療センター）、平野（名古屋医療センター）、上田（静岡医療センター）、山本（三重中央医療センター）、朝居（三重中央医療センター）、杉村（金沢医療センター）、石嶋（金沢医療センター）、舟瀬（北陸病院）、鈴木（東名古屋病院）、早川（長寿医療）

日時：2020 年 5 月 21 日　17 時～18 時

Teams で Web 会議

議案 1　学術研究委員会の目標について

Vision

「臨床研究を通して、臨床現場で問題解決できる薬剤師を創出する」

Mission

「正しい臨床研究手法を習得し、臨床研究能力を育成する」

令和 2 年度も昨年の Vision＆Mission を引き継ぐ。若手薬剤師が学会発表を行う回数は増えたが、発表から論文投稿まで進展しない。論文を書ける薬剤師を育成し、次世代の医療薬学指導薬剤師を育成する。

議案 2　令和 2 年度　活動について　研究クラウドの設立について

1. 令和 1 年度会員研究実績調査

2. 令和 1 年度学会賞受賞調査

今年度も引き続き調査を行う。学会で発表済みの研究課題の抄録の電子媒体をクラウドシステムで保管し、TPH 会員間で共有する。電子媒体を共有についてはあらかじめ作成者の許可を得ることとする。

議案 3　小委員会活動について

1) ALS 患者の疼痛緩和治療に関する現状調査

今年度も研究を継続する。

2) 高齢者のポリファーマシー発生要因に関する後ろ向き多施設共同研究

研究成果は日本老年薬学会雑誌にアクセプトされた。2020 年 3 巻 2 号に掲載予定。

3) ダプトマイシン（DAP）の高用量の安全性について

薬剤部科長協議会の研究費を取得。今年度の医療薬学会に発表予定。

4) 薬物間相互作用によって誘発されるポリファーマシー

薬剤部科長協議会の研究費を取得。今年度の医療薬学会に発表予定。

5) 病棟薬剤師の手指衛生に対する意識向上を目指した多施設共同研究　－教育学的介入による効果の検討－

今年度も研究を継続する。

議案 4　令和 2 年度の学術委員勉強会について

今年度の開催は困難。THP 総会で開催できなかった学術発表会を Web で代替開催可能か模索する。

議案 5　平成 31 年度研究討論会（研究キャンプ）について

昨年と同様 9 月 19 日～22 日の医療薬学会年会（名古屋）において研究討論会を開催する。

候補日は 9 月 20 日とし、山本（静岡てんかん・神経医療センター）、山本（三重中央医療センター）が担当する。コロナウイルス感染の状況を考慮し、場合によっては Web 開催に切り替える。

議案 6　個人研究相談窓口の開設

今年度も林（名古屋医療センター）、山本（静岡てんかん・神経医療センター）・平野（名古屋医療センター）および地区メンターが担当する

3. 令和 2 年度　後期活動予定

1）2020 年10 月 31 日：日本医療薬学会研究討論会（Web 開催）

編集後記

会誌 Vol.24 を発行します。

今回の会誌は、会員の皆様もご存知の通り、総会がメール形式となり研究発表会が開催されなかったため、優秀発表者の原稿掲載ができず少しコンパクトな内容となっています。コロナ禍の状況中、研究発表会の中止は仕方なかったのですが、ＴＨＰ会員の活動報告の一環として発表者の原稿は是非掲載したいところでした。来年度については、理事会でも総会開催について計画を始めていますので Web 環境を利用することで研究発表会も開催できるのではないかと思います。

話は変わりますが、冬になり気温の低下に伴い各地で新型コロナウイルス感染者がじわじわと増加を始めています。また、高木先生の巻頭言にもあるように「ツインデミック」も気になるところです。（南半球の冬季にはインフルエンザウイルスの感染者はほとんどなかったようですが）それぞれの職場では感染対策に努めていると思いますが、普段の生活の中でも「適切なマスクの着用」「３密を避ける」「帰宅時などに手を洗う」などの感染対策を一人ひとりが着実に続けていきましょう。

東海北陸国立病院薬剤師会会誌 第 24 号 令和 2 年 11 月発行

発行元　東海北陸国立病院薬剤師会
（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター薬剤科内）

発行人　会長　中井 正広（名古屋医療センター）

編 集　広報担当理事　三井　陽二（七尾病院）